

経営比較分析表(令和2年度決算)

経営比較分析表とは、各公営企業の経営及び施設の状況を表す主要な経営指標とその分析で構成されたもので、公営企業の見える化を推進するため平成26年度決算から策定しています。

経営比較分析表を活用することにより、当該団体の経年比較や他の公営企業との比較、複数の指標を組み合わせた分析を行い、経営の現状及び課題を的確かつ簡明に把握することが可能となります。

指標の基礎数値は、市の病院事業会計と指定管理者が運営を行っている市立大村市民病院の決算値を合算したものを使用しています。

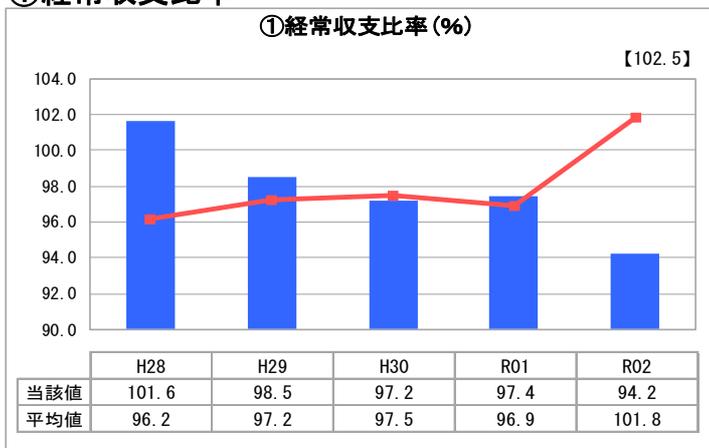
類似病院とは、一般病院を病床数で区分したものです。市立大村市民病院と同じ区分(200床以上300床未満)には全国で84病院あります。

グラフ凡例

- 当該病院値(当該値)
- 類似病院平均値(平均値)
- 【】 令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性

① 経常収支比率



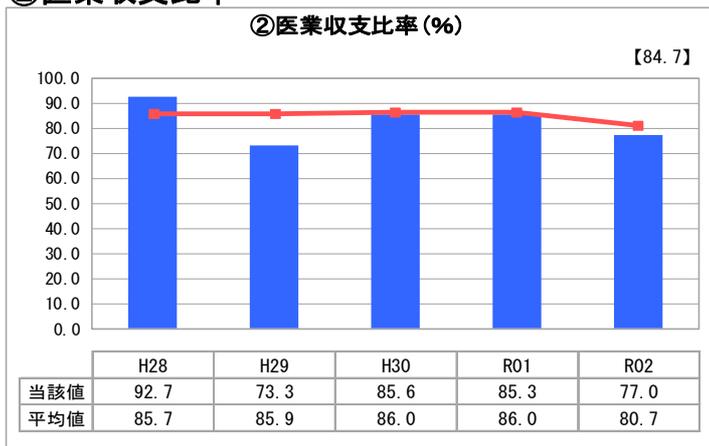
【指標の意味】

医業費用、医業外費用に対する医業収益、医業外収益の割合を表し、通常の病院活動による収益状況を示す指標。数値が100%未満の場合、単年度の収支が赤字であることを示しており、経営改善に向けた取組が必要である。

【分析】

平成29年度から令和元年度は、病院事業会計(市)の赤字決算の影響で100%を下回っていましたが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、市民病院(指定管理者)も赤字決算となりました。類似病院平均値は増加していますが、これは、国庫補助金等による医業外収益が大幅に増加したことが影響しています。市民病院においても補助金により医業外収益は増加したものの、医業収益の減少幅がそれを上回っていたため、減少しています。

② 医業収支比率



【指標の意味】

病院の本業である医業活動から生じる医業費用に対する医業収益の割合を示す指標である。医業費用が医業収益によってどの程度賄われているかを示すものであり、医業活動における経営状況を判断するものである。

【分析】

こちらの指標も、新型コロナウイルス感染症の影響により、大幅に減少しています。類似病院も同様に患者の受診控え等により、減少しています。なお、平成29年度が特に低くなっていますが、これは、病院建て替えに伴う資産減耗費(貸借対照表上の資産除却処理)が生じたためです。

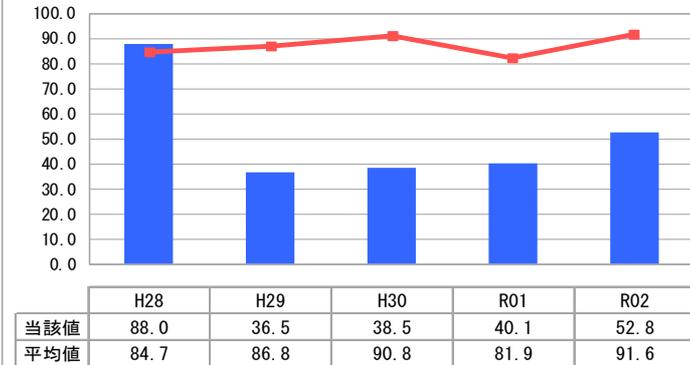
グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 令和2年度全国平均

③累積欠損金比率

③累積欠損金比率(%)

【69.3】



【指標の意味】

医業収益に対する累積欠損金(当年度未処理欠損金、当期未処理損失)の状況を示す指標で、累積欠損金が解消されるよう経営改善を図っていく必要がある。

【分析】

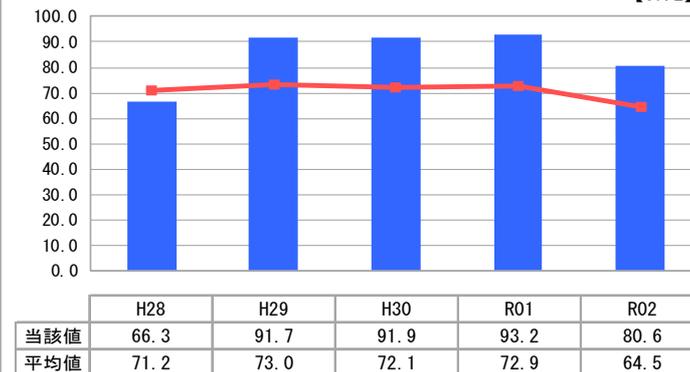
累積欠損金比率は、平成29年度に病院建て替えに伴う経理処理を行ったことで、大幅に減少しましたが、その後は病院事業会計の赤字決算が続いていることで増加を続けています。

病院事業会計は、市の一般会計からの繰入金によって賄っており、黒字化が困難です。そのため、今後も累積欠損金比率は増加を続けると思われますが、少しでも解消するよう取組を進める必要があります。

④病床利用率

④病床利用率(%)

【67.2】



【指標の意味】

病院の施設が有効に活用されているか判断する指標である。病床利用率が低い場合、病床数に見合う職員配置による経費が生じているにもかかわらず、それに相応する診療収入が得られず、経営悪化の要因となる。

【分析】

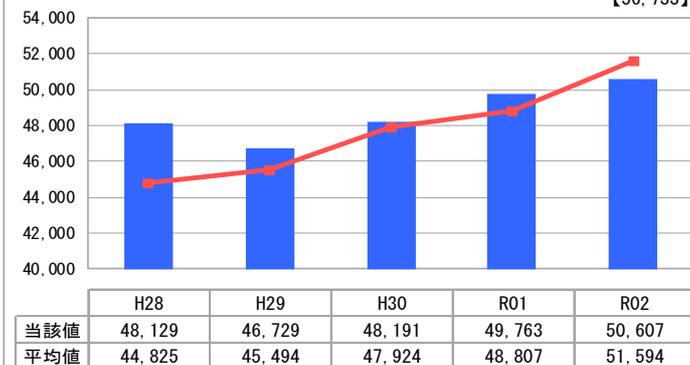
平成29年度に建替え後の病院の供用を開始したことに伴い、平均値を超える高い病床利用率となっていました。令和2年度においては、新型コロナウイルス感染症の影響により減少しています。

病床利用率の確保は、病院運営を行う上で重要であるため、患者が安心して安定的に受診できる状況を確保する必要があります。

⑤入院患者1人1日当たり収益

⑤入院患者1人1日当たり収益(円)

【56,733】



【指標の意味】

入院患者への診療及び療養に係る収益について、入院患者1人1日当たりの平均単価を示す指標である。減少傾向にある場合や、類似病院の平均より下回っている場合は、その原因について分析し、安定した収益が確保できるよう、改善へ向けて検討することが求められる。

【分析】

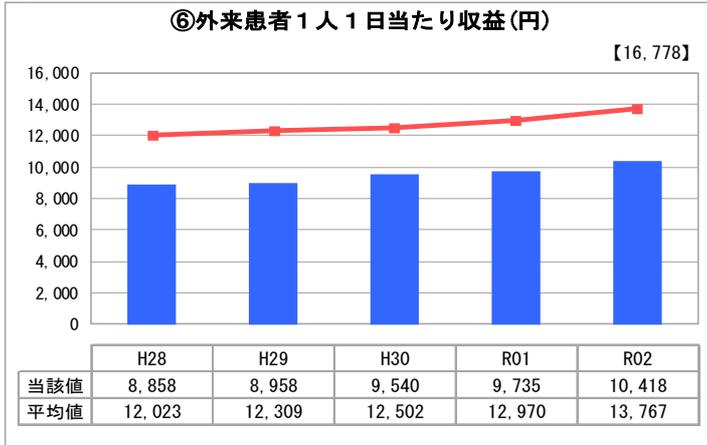
令和2年度は、感染症の影響で単価が低い軽症者の受診控えが多かったため、1人1日当たりの収益は増加をしています。

しかしながら、医業収益の減少が大きいため、この指標はあくまでも参考数値と捉え、患者が安定的に受診できる状況を確保する必要があります。

グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 令和2年度全国平均

⑥外来患者1人1日当たり収益



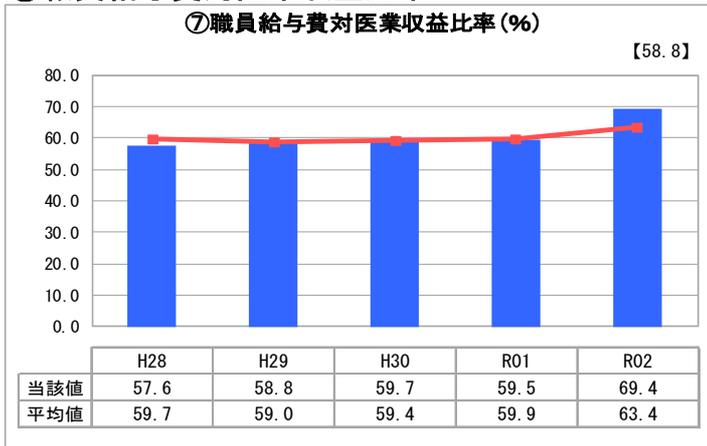
【指標の意味】

外来患者への診療及び療養に係る収益について、外来患者1人1日当たりの平均単価を示す指標である。減少傾向にある場合や、類似病院の平均より下回っている場合は、その原因について分析し、安定した収益が確保できるよう、改善へ向けて検討することが求められる。

【分析】

⑤の指標同様、感染症の影響で単価が低い軽症者や外来リハビリ等の受診控えが多かったため、1人1日当たりの収益は増加をしています。

⑦職員給与費対医業収益比率



【指標の意味】

医業収益の中で職員給与費が占める割合を示す指標である。病院は人的サービスが主体となる事業であり、職員給与費が最も高い割合を占めることとなる。このため、職員給与費をいかに適切なものとするかが重要なポイントとなる。

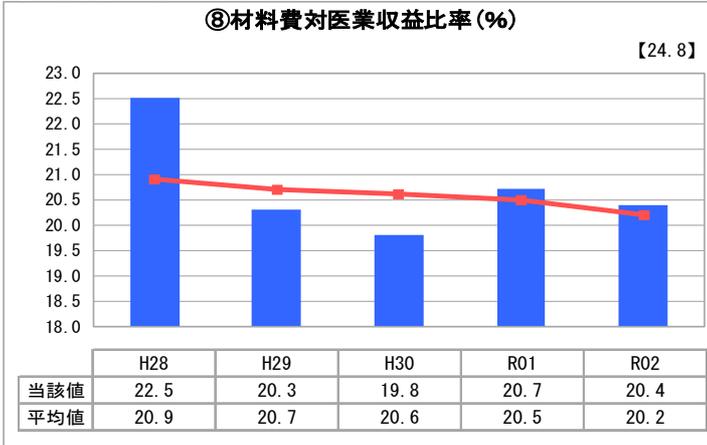
【分析】

職員給与費対医業収益比率は、令和元年度までは類似病院平均値とほぼ同じ比率で推移していましたが、令和2年度は大きく上回っています。これは、医業収益が大幅に減少したことが要因です。

(単位:千円)

	R1	R2	増減
職員給与費	2,745,390	2,840,472	95,082
医業収益	4,612,359	4,095,724	△516,635
比率	59.5%	69.4%	-

⑧材料費対医業収益比率



【指標の意味】

医業収益の中で材料費が占める割合を示す指標である。薬品費等を含む材料費は、費用のうち職員給与費に次いで高い割合を占める要因の1つである。

【分析】

材料費対医業収益比率は、平成29年度以降、類似病院平均値とほぼ同じ比率で推移しています。令和2年度は、医業収益が減少しましたが材料費も減少したため、比率は減少しています。

(単位:千円)

	R1	R2	増減
薬品費	288,982	267,489	△21,493
その他材料	615,331	525,002	△90,329
給食材料費	48,800	42,788	△6,012
合計	953,113	835,279	△117,834

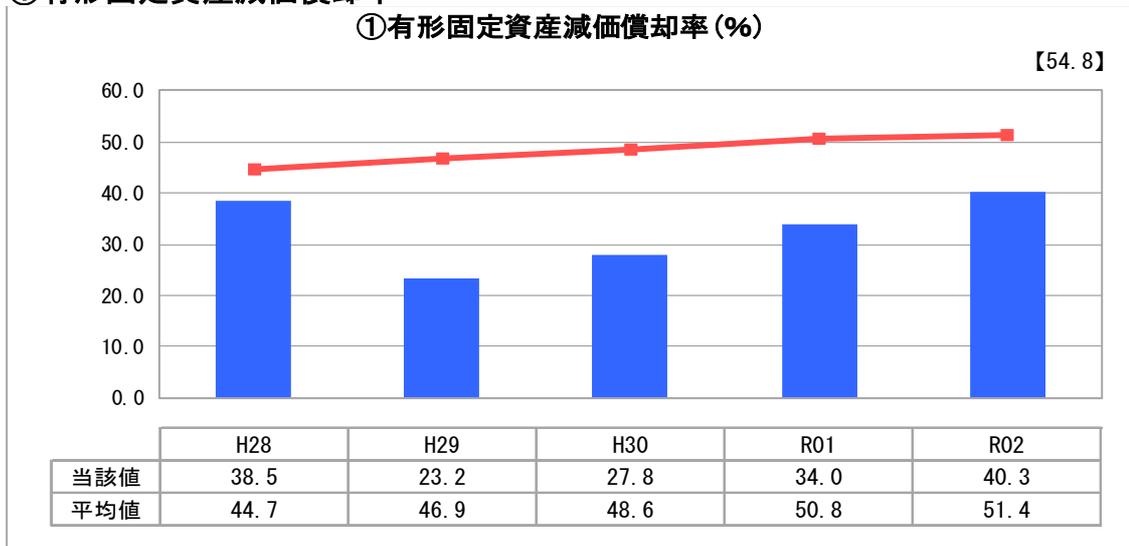
2. 老朽化の状況

グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 令和2年度全国平均

①有形固定資産減価償却率

①有形固定資産減価償却率（%）



【指標の意味】

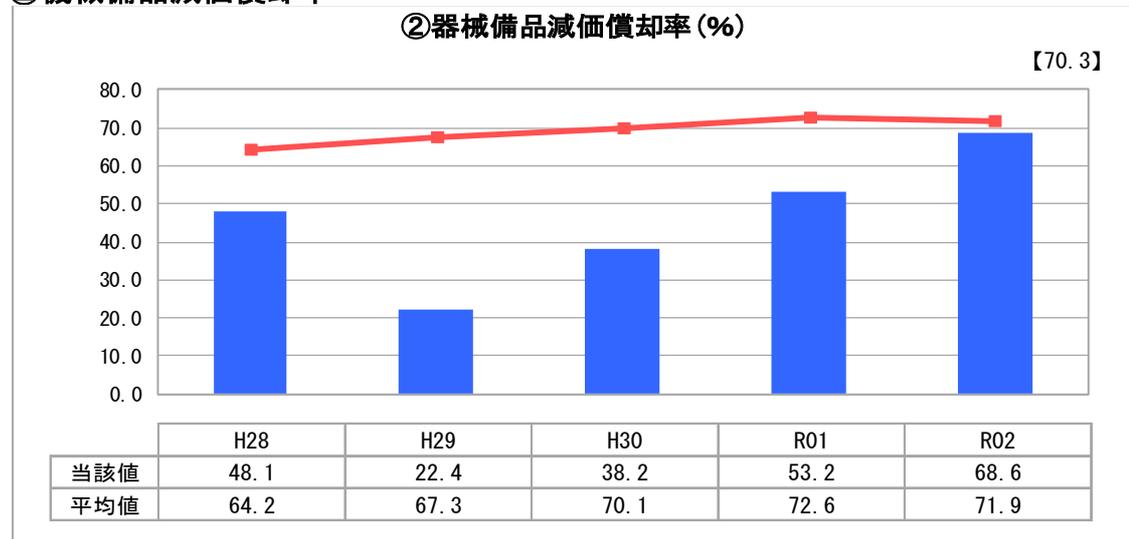
有形固定資産のうち償却対象資産の減価償却がどの程度進んでいるかを示す指標で、資産の老朽化度合を表す。数値が高い場合には老朽化が進んでいることを示しているため、計画的な施設の更新等を検討する必要がある。

【分析】

平成27年度は78.9%と高い比率でしたが、平成28年度末に病院建替えが完了したことで平均値を下回っています。平成29年度以降は建替え後の病院と老朽化した機器の更新に伴い新たに購入した機器の減価償却を行っていることから、増加を続けています。

②機械備品減価償却率

②器械備品減価償却率（%）



【指標の意味】

有形固定資産のうち医療器械備品の減価償却がどの程度進んでいるかを示す指標で、資産の老朽化度合を表す。①同様、数値が高い場合には老朽化が進んでいることを示しているため、計画的な施設の更新等を検討する必要がある。

【分析】

平成27年度は95.0%と高い比率でしたが、平成28年度末の病院建替えに伴い医療機器の更新も行ったため、平均値を下回っています。平成29年度以降は新たに購入した機器の減価償却を行っていることから、増加を続けています。医療機器の償却期間（耐用年数）はほとんどが10年以下であるため、比率の増加が大きくなっています。

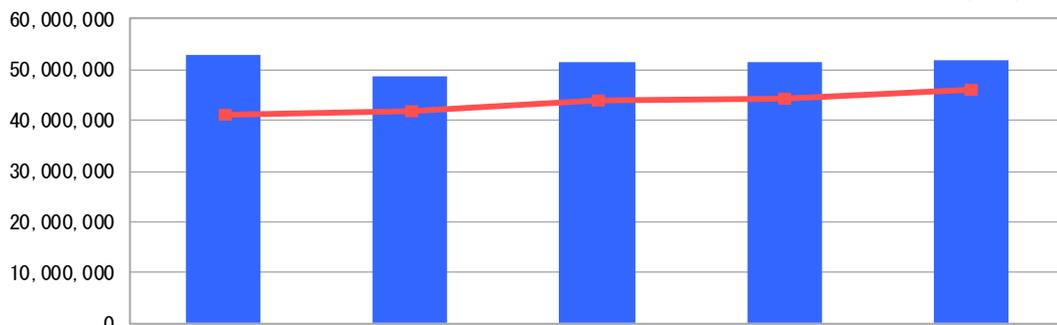
グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 令和2年度全国平均

③1床当たり有形固定資産

③ 1床当たり有形固定資産(円)

【49,168,683】



	H28	H29	H30	R01	R02
当該値	52,921,778	48,719,421	51,522,273	51,685,773	51,762,671
平均値	41,260,555	41,975,086	43,785,070	44,436,827	45,896,030

【指標の意味】

1床当たりの有形固定資産の保有状況を示す指標である。過大な投資は、将来的に減価償却費として収益的支出の増大にもつながることから、類似病院平均より上回っている場合は、その原因について分析し、改善に向けて投資計画の策定等を検討することが求められる。

【分析】

毎年度、医療機器の更新を行っているため、増加を続けています。平均値と比較して大きくなっていますが、平成28年度末の病院建替えの影響が考えられます。

(参考)建替え前(平成27年度)数値:25,422,423